

総合計画策定審議会 第6回第3専門部会 議論シート

分野	これまでの議論	論点	分野	施策	これまでの議論	論点
自然・環境分野	1. 環境保全 (中間報告) ・地球温暖化などの環境問題は、地域としても、全国的な対応策と連携しながら取り組んでいくことが求められています。 ・省エネルギーの推進はもとより、太陽光などの新エネルギーやバイオマスなど地域に豊富にある未利用エネルギーの活用などを通して、温室効果ガスの排出抑制などに取り組んでいくことが必要です。 ・市民一人ひとりが環境に関心を持ち、環境に配慮した生活を心がけることが大切であり、市民への意識啓発や、環境教育の充実などを通して環境を守る意識を育てていくことが必要です。 ・自然と調和した地域社会づくりのためには、水・空気・緑など地域の豊かな自然を保全し、次の世代に継承していくことが大切です。 (議論済みの項目) ・地域の環境を守る取り組みは、市民協働で進めていくことが必要。		都市基盤分野	6. 墓地・火葬場		墓地整備について (参考) ・中島霊園 整備済み区画数 1,469区画(H19年度末) 貸付区画数 909区画(H19年度末) (全体計画 H12～54 9,500区画) ・墓の維持管理の負担を子どもにかけたくないなど、墓地に対するニーズが多様化しており、管理の手間がかからない新たな形式の墓が求められている。  火葬場の運営について ・火葬場(清照殿) 昭和63年7月供用開始 火葬件数 H13年度1,281件 H18年度1,450件
	2. ごみ減量化・資源化 (中間報告) ・資源循環型社会の形成に向け、市民や企業と連携しながら、ごみの排出抑制やリサイクル活動を促進することが必要です。 ・市民一人ひとりが環境に関心を持ち、環境に配慮した生活を心がけることが大切であり、市民への意識啓発や、環境教育の充実などを通して環境を守る意識を育てていくことが必要です(再掲)。 (議論済みの項目) ・捨てているものを環境負荷の軽減のために活用することが必要。			7. 平和と人権 (中間報告) ・地域社会には、様々な人たちが、それぞれの役割を担いながら暮らしています。障害の有無や年齢・性別などにかかわらず、すべての人が暮らしやすい社会を実現するためには、それぞれの人が立場の違いを理解し、お互いに人権を尊重し、支え合うための環境整備をすすめていくことが必要です。		平和に対する意識向上について (参考) ・帯広市は平成3年に核兵器廃絶平和都市宣言 ・平和に関する啓発事業 (パネル展示、ビデオ上映、平和コンサート、語り部の会、平和の絵募集、平和カレンダー等)
	3. 公園・緑化・河川 (中間報告) ・これまで市民の手で創り上げてきた帯広の森や、十勝を代表する景観でもある防風林などを守り育てていくことが必要です。 ・市街地においても、公園の整備や住宅地における緑地空間の確保など、質の高い緑豊かな環境づくりを市民との協働によりすすめることが必要です。 (議論済みの項目) ・公園等の適切な維持管理や街路樹の剪定など適切な維持管理や花と緑のセンターを活用した緑づくりが必要。 ・水に親しむ機会の提供が必要。			8. 男女共同参画 (中間報告) ・性別にかかわらず、意欲と能力に応じて、仕事、家庭など様々な分野で活躍できる男女共同参画社会を実現することが求められていますが、女性は、結婚、出産、子育て期に仕事をやめる傾向があります。 ・女性が働きながら子育てしやすい職場環境を整備 (議論済みの項目) ・計画等の策定段階から女性の視点を取り入れることが必要。 ・男女が平等であることの意識啓発が必要 ・女性への暴力を根絶するため、DV相談は道と連携した取り組みが必要。		
	4. 上下水道 (中間報告) ・河畔林や動植物の生態系に配慮しながら水質を守り、将来にわたって安心して水道水を利用することができるよう、水資源を維持・保全することが必要です。 (参考) ・帯広市は平成18年に「上下水道ビジョン2006」を策定。 1. 安全で安心できる施設づくり 2. 環境にやさしい取り組み 3. 利用者サービスの向上 4. 健全な経営 を基本理念に掲げ、施策を推進。 <水道> ・水道普及率 S61-97.6% H18-99.9% <下水道> ・下水道整備率 S61-56.9% H18-97.4% ・水洗トイレの普及率 S61-80.5% H18-96.7%	上下水道事業の方向について		9. ユニバーサルデザイン (中間報告) ・ユニバーサルデザインの考えに基づき、誰もが住みやすいまちづくりをすすめていくことが必要です。		ユニバーサルデザインの普及について (参考) ・ユニバーサルデザイン普及の主な取り組み UD教室の実施 H13からH19までに小中学校で述べ35校、1,812人を対象に実施
都市基盤分野	5. 景観 (中間報告) ・帯広・十勝には、季節によって彩りを変える田園風景や、防風林、日高山脈の山並みといった美しい農村景観があり、こうした貴重な財産を大切にすることが必要です。 ・市街地においても、地域性と統一感のある都市景観づくりに取り組み、次の世代に引き継いでいくことが必要です。 (議論済みの項目) ・市街地において、街路樹などの緑を活用した景観づくりが必要		10. アイヌの人たち (参考) ・アイヌの人たちについて (参考) ・帯広市では、アイヌ施策推進計画に基づき、教育の振興 アイヌ民族についての理解促進 文化の振興 生活の自立と生活環境の充実を基本に施策を推進。		11. 地域コミュニティ ・地域コミュニティは、良好な生活環境を築くための基礎となるものであり、災害などの緊急時には、重要な役割を果たすものです。 ・町内会は、地域コミュニティを形成する上で大きな役割を担っていますが、地域の高齢化や人口の減少、更には、町内会への加入率低下などの課題を抱えています。 ・町内会や地域のサークル活動などを活発にするため、誰もが参加しやすい環境づくりを地域と行政が協力して取り組んでいくことが必要です。 (議論済みの項目) ・人のコミュニケーションを促進するため、人が集まる場所の有効活用が必要	